



■附設近況■

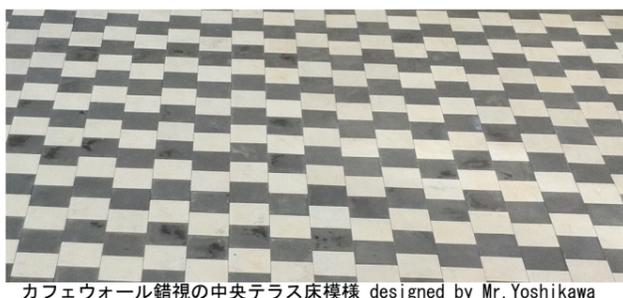
校長 吉川 敦

最近の附設ですが、新校舎東棟が出来上がり、この記事がお手元に届くころには、すべての教室が移っていて、もとの校舎の方は取り壊し中ということになっていると思います。九月の(世間は)三連休の前後には、多くの同窓生諸兄姉、中でも、卒業して日の浅い(秋休み中の)若い諸君が、大挙して、附設を訪れました。

一方、新校舎への移転を前に、中高の生徒会は合同で現校舎へのお別れイベントを計画しています。10月6日の前期終業式の後、現在の二号館校舎への感謝と送別の念を籠めて、ささやかながら、校舎を飾り付け、板垣先生の銅像を巡る斜路に中高それぞれの生徒たちが校舎を背景に記念写真を撮るといったのが主な行事です。当日はきっと秋晴れの素晴らしい日になるに違いないと思います。

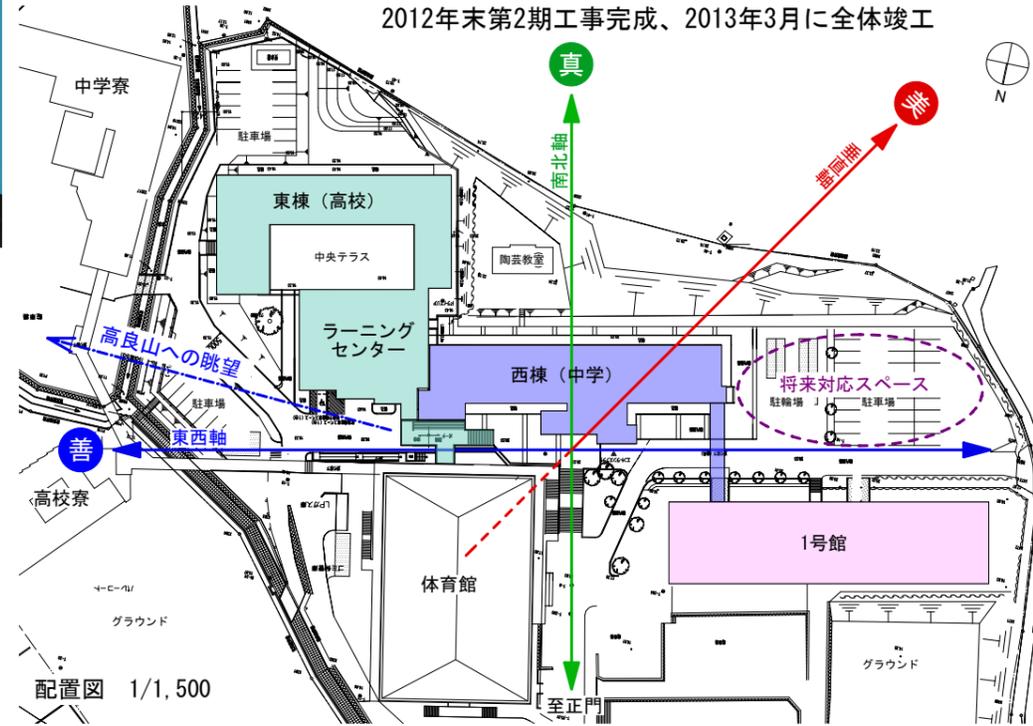
また、平成25年春、新校舎東西棟の供用初年度からの中学共学化開始について学校法人久留米大学理事会の了承を得ました。生徒数はほぼ現状のままですが、詳細の詰めは、まだ今後の仕事です。

肝腎の学校の方ですが、夏休み直後の定まらぬ天候の中、高校体育祭、中学体育大会を無事に終えてほっとしたのも束の間、世情の何となく弛緩した中で、新校舎への移転を控え、附設だけでもよい意味での緊張感を維持したいと思っはいても、何件か、それがいかに難しいことか痛感するようなことが起きました。大変残念なことでしたが、負けることなく、附設が今後ともよき学び舎であり続けるよう努力して参ります。



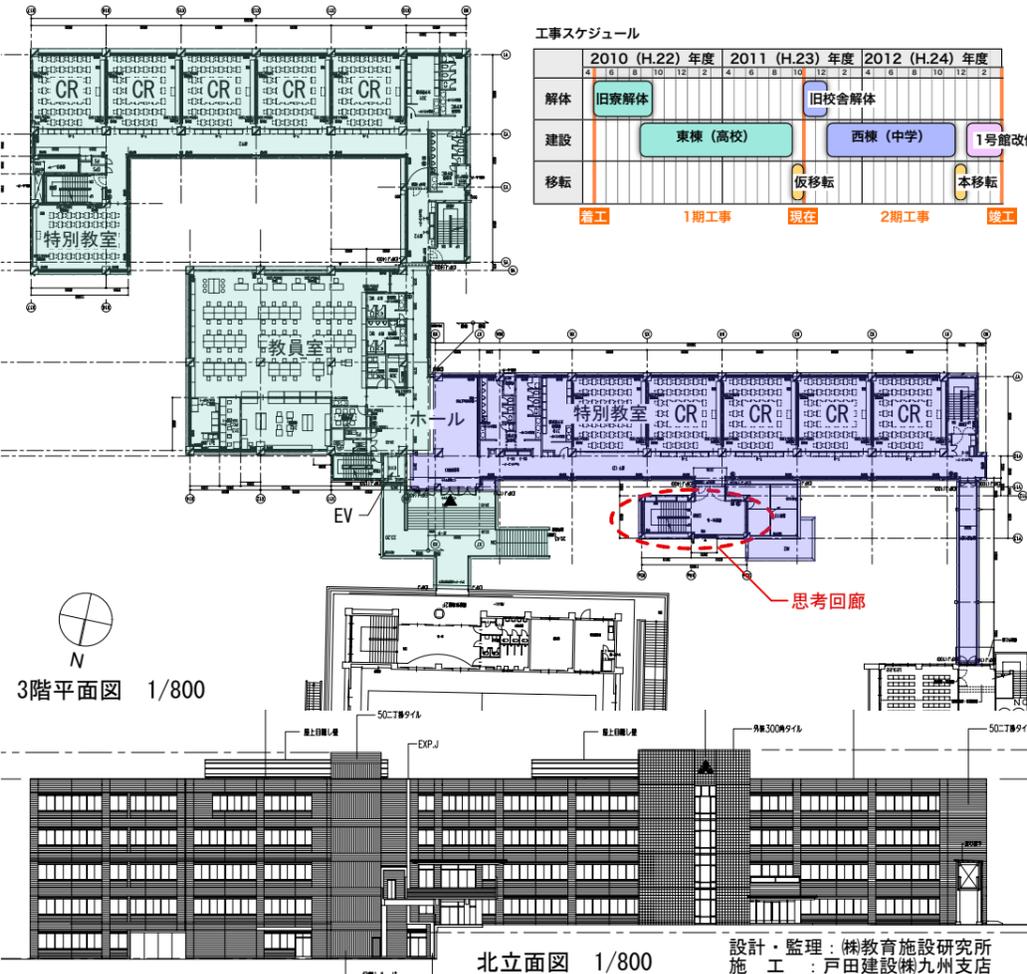
カフェウォール錯視の中央テラス床模様 designed by Mr. Yoshikawa

■2011年8月末新校舎第1期工事完成し、10月から待望の新校舎での授業はじまる■
2012年末第2期工事完成、2013年3月に全体竣工



配置図 1/1,500

- 《東棟(高校)》
 - 5F 普通教室・特別教室
 - 4F 普通教室・特別教室
 - 3F 普通教室・特別教室
 - 2F 実験室(社会・物理・地学)
 - 1F 実験室(化学・生物)
- 《ラーニングセンター》
 - 5F 音楽室・LL教室
 - 4F 美術室・合同講義室
 - 3F 教員室
 - 2F 図書室
 - 1F 書庫・保健室
- 《西棟(中学)》
 - 5F 普通教室・特別教室
 - 4F 普通教室・特別教室
 - 3F 普通教室・特別教室
 - 2F 校長室・事務室・会議室



■建築計画について■ 附設アーキテツツ21 佐々木郁夫(27回生)

「真」の南北軸、「善」の東西軸、そして「美」の垂直軸。私たち同窓建築家グループ「附設アーキテツツ21」では、建学の精神を空間的に表現すべく、校歌に謳い込まれた真善美の理想郷を建築計画に盛り込もうと、このような軸線設定を構想段階から提案してきました。また、附設の自由でおおらかな文化的精神風土を発展させることができるような校舎建築を追い求め、基本設計段階でもプランニングの提案をさせていただきました。

一方、吉川校長先生の計画方針は、「生徒にとって行き止まり感のある場所を作らないこと」と、「大人の眼差しが必ず感じられるようにすること」で、中等教育機関としての先導性と適切性の確保に留意されたとのことです。情報中枢となるラーニングセンターを中心にコンパクトにまとめ、心理面にも配慮のある小気味好い学習空間になるものと期待しています。

限られた敷地条件下での将来計画への備えや、管理面や経済面の現実との狭間で妥協を余儀なくされる場面も多々ありましたが、校長先生をはじめ学校関係者の皆さんが私たちの提言に耳を傾け、少しでも実現を図ろうと奮闘してくださったご配慮に感謝しています。特に美の焦点となる正面のシンボル塔は、かつての面影を残しながら、黄金分割による比例を徹底することで、端正な美しさを醸すものと期待しています。その塔の階段室を活用した展示空間が「思考回廊」です。ここに全ての卒業生の魂を吹き込むことで校舎建築が生氣あふれるものとなり、後輩たちの心に響き、必ずや母校の発展につながるものと確信します。なお、同窓会室は1号館1階に整備されます。

この度、大きく2期に分けた工事の1期工事=東棟(高校)が完了しました。10月に仮移転の後2期工事が始まり、今年中に旧校舎を解体、平成24年12月までに西棟(中学)完成、平成25年3月までに1号館改修工事を完了して、同年4月から全館供用開始の予定です。今後も同窓会活動の一環として、最後まで先生方に寄り添い、協力していきたいと考えています。

